



第五回 ■平成8年  
伊東 信行  
いとう のぶゆき

プロフィール  
一九二八(昭和三)年京田辺市(京都府)生まれ。一九五二(昭和二七)年奈良県立医科大学卒。米国ピッツバーグ大学研究員(一九六二)〜六四(六八年)。昭和四七年奈良医大教授(腫瘍病理学)。昭和四九年名古屋私立大学医学部教授(病理学)。ドイツ国立癌研究センター客員研究員(一九八二)〜八三。化学発癌の病理学的研究を行い環境中から多くの発癌物質を発見した。厚生省食品衛生調査会、文部省大学設置・学校法人審議会常任委員、日本癌学会、病理学会、毒性病理学会、毒科学会、各理事を歴任。高松宮妃癌研究基金学術賞、武田医学賞、紫綬褒章。ネブラスカ大学、カジャリ大学名誉学位、アメリカ毒性病理学会名誉会員。平成六年名古屋市立大学学長。名古屋市顧問。



第六回 ■平成9年  
橋本 嘉幸  
はしもと よしゆき

プロフィール  
一九三〇(昭和五)年東京生まれ。一九五二(昭和二八)年東京大学医学部薬学助手。一九六二(昭和三七)年(財)東京生化学研究所研究員。一九七五(昭和五〇)年東北大学薬学部教授(衛生化学講座)。一九九三(平成五)年同薬学部長。一九九四(平成六)年東北大学名誉教授。からだの細胞による癌細胞のメカニズムの研究などにより癌の免疫研究発展に寄与した。また、化学発癌物質による発癌メカニズムの研究において多くの新知見を発表した。各種の文部省調査会委員、厚生省薬事審議会委員、平成六年日本学術会議委員、日本免疫学会、日本薬学会賞、紫綬褒章を受賞。日本癌学会、日本薬学会、日本免疫学会、日本薬学会賞、紫綬褒章を受賞。平成十一月。公立薬科大学理事長(平成十三年〜現在に至る)。財団法人浅川町吉田富三顕彰会名誉評議員。



第七回 ■平成10年  
黒木 登志夫  
くろき としお

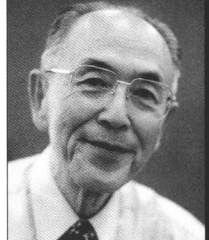
プロフィール  
一九三六(昭和十一)年東京生まれ。一九六〇(昭和三五)年東北大学医学部卒。インタラーを経てがん研究に入る。東北大学抗酸菌病研究所(現加齢医学研究所)肺癌研究部助教授。一九六七(昭和四二)年、東京大学医学部研究所腫瘍細胞研究部助教授(一九七二)〜一九八四年を経て一九八四〜一九九六年まで同教授。この間、米国ワイズマン・コンラッド・リオン市(一九六九)〜一九七一年、WHO国際がん研究機関(フランス・パリ)に勤務した(一九七五)〜一九七八。一九九六年三月東京大学退官。四月より昭和大学腫瘍分子生物学研究所所長、東京大学名誉教授。専門は発がんとかん細胞の細胞生物学。二〇〇一年岐阜大学学長。



第八回 ■平成11年  
吉田 光昭  
よしだ みつあき

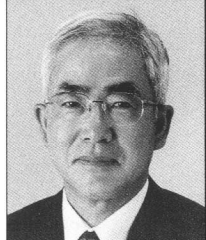
プロフィール  
一九七〇(昭和四五)年試験管内発がん実験により第四回高松宮妃癌研究基金学術賞受賞。一九九八年(平成一〇)年、日本癌学会吉田賞受賞。英文発表論文は二〇〇編、邦文発表総説は二四五編、邦文編著書は一編に及び、代表編著書に一九八四年朝倉書店『科学者のための英文手紙の書き方』、一九八九年朝日新聞社・朝日選書二八四『がん細胞の誕生』、一九九六年中央公論社・中公新書二九〇『がん遺伝子の発見』、一九九六年日経サイエンス社『細胞内シグナル伝達』がある。

プロフィール  
一九三九(昭和十四)年富山県高岡市生まれ。一九六一(昭和三五)年富山大学薬学部卒。一九六七(昭和四二)年東京大学系大学院博士課程修了。東京大学薬学部助手。この間(一九七七)〜一九七九年、イギリス Medical Research Council Laboratory of Molecular Biology, Cambridge に留学。一九七五(昭和五〇)年財団法人癌研究会・癌研究所研究員となり、同部長。一九八九(平成元)年東京大学医学部研究所細胞化学研究部教授。一九九六年〜一九九九年(平成十)年定年により退官。四月萬有製薬株式会社つくば研究所所長。東京大学名誉教授。がんウイルスとその発がん機構の分子生物学的研究を専門とする。ヒト白血球ウイルスを日本患者より分離し、その全ゲノム構造を決定して、ヒト白血球ウイルスの分子生物学的基盤を確立した。この貢献により、高松宮妃癌研究基金学術賞、武田医学賞、朝日賞を受賞。一九九八年日本分子生物学学会会長、文部省の各種調査委員会委員、日本癌学会、日本ウイルス学会の理事を歴任。日本分子生物学会、日本生化学会の評議員、外国の専門誌五誌の編集委員。紫綬褒章受賞。



第九回 ■平成12年  
小林 博  
こばやし ひろし

プロフィール  
一九二七(昭和二)年札幌に生まれる。一九五二年に北大医学部を卒業。一年のインターンにあつた北大医学部病理学教室で病理学の研鑽に励み、のちに米国国立癌研究所病理部に留学。帰国後に新設の北大癌研の病理部門の助教授。次いで、一九六五年教授に就任し当時の北大癌研(六部門)の創設とその発展に貢献。北大教授在職二年の間、学生部長、評議員、癌研施設長などを歴任。癌研究一筋に歩み、一九八一年から日本学術会議癌研究連絡委員会、一九九一年から同会議癌・老化研究連絡委員を務め、また一九九一年財団法人札幌がんセミナーの設立に参加し、一九九〇年には日本癌学会会長を務めた。



第十回 ■平成13年  
関谷 剛男  
せきや たかお

プロフィール  
一九八六年には「がん細胞の異物化」の研究業績で日本医師会医学賞を受け、また一九九〇年には病理学の研究で紫綬褒章を受けた。

プロフィール  
一九三九年(昭和十四年)東京生まれ。一九六四年(昭和三九年)東京大学医学部卒業。一九六九年(昭和四四)同大学院薬学系研究科博士課程修了、薬学博士。一九六九年(昭和四四)(財)微生物化学研究会微生物化学研究所研究員。一九七二年(昭和四七)から一九七六年(昭和五一)米国マサチューセッツ工科大学生物学部化学部リサーチアソシエイト。一九七七年(昭和五二)国立がんセンター研究所生物学部室長。一九八四年(昭和五九)同腫瘍遺伝子研究部部長。二〇〇〇年(平成十二)年定年退職、医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構研究顧問、国立がんセンター研究所客員研究員。一本鎖DNA高次構造多型(SSCP)解析法などのDNA解析技術の開発により、ヒトがんにおけるDNA異常の簡便な検索・同定を可能とし、遺伝子レベルでのがんの理解に大きく貢献した。一九七八年(昭和五三)日本生化学会奨励賞、一九九二年(平成三年)日経BP技術賞、一九九三年(平成四年)高松宮妃癌研究基金学術賞、二〇〇〇年(平成十二)年日本薬学会賞、二〇〇〇年(平成十二)年第四一回藤原賞、二〇〇一年(平成十三)年日本電気泳動学会国際学術賞平井賞を受賞。